

経営理念		〈保育目標〉すくすく おれんじ げんきなこ 〈経営目標〉一人一人の子どもを大切にし、保護者に信頼され、地域に愛される保育所をめざす 〈子ども像〉・元気に遊べる子ども・自分の思いをすなおに出せる子ども・優しく心豊かな子ども・意欲のある子ども 〈保育所像〉・子どもの笑顔が輝く保育所・子どもの育ちを支える保育所・保護者や地域から信頼される保育所 ・幼稚園と連携して子どもの育ちを支える保育所 〈保育士像〉・子どもとの信頼関係を大切にする保育士・意欲を育む環境を考える保育士・チームワークを大切にする保育士 ・保護者により良い協力関係を築く保育士・専門性の向上に努める保育士					
中期経営目標		短期経営目標 （評価項目）	自 己 評 価		保育所関係者評価		改 善 策 等
			達 成 状 況	評価	考 察	評価	
職員の育成・資質向上や運営	職務分担が適切に機能し、子どもたちのために職員がお互いに協働する保育所を構築する。	クラスに関わる職員と保育を伝え合い保育が繋がる為の引き継ぎを行う（報告・連絡・相談）	・終礼やカリキュラム会、午睡中にその日の保育のねらいや大切にしていること、子どもの姿から保育者の関り、気になる姿などについて子どもや保護者の様子を共有することで、他のクラスの職員とも子どもの育ちや保育について伝え合い共有してきたことで他のクラスや他学年の保育や行事にも目を向け合いながら園全体で保育をする意識が向上した。	A	・達成状況はよいのではないかと。保育所は、早朝保育から延長保育まで長時間の保育である中、日々の振り返りや、子どもの姿にあった環境構成や保育者の援助を進めていけるためには、職員同士のつながりがないとできないことではない。	A	子どもの育ちや発達について定期的に話し合い、子どもの理解や保護者対応に活かせるよう引き続き、保育の伝え合いが確実にできるように意識して、声のかけあい、ボードの活用、終礼などで報告・連絡・相談に努力する。
		園内外の研修に意欲的に参加し、保育に生かす	・一人一人が主体的に研修会に参加し自身のスキル向上に努めた。パート職員も掲示してある協議資料に目を通し、学びを確認することができた。園外の研修に参加した職員は、学んだ事をまとめ職員会で報告をしている。報告することやまとめることで再度学びを確認している。研修や研究協議で得た知識を積極的に実践に活かし、子どもの姿を通して変化や育ちを実感したり、新たな気づきを得ることができたが、実践ができないこともあった。 自己評価では75%以上の保育士が【研修で学んだ事をすぐに保育に生かし実践している】と評価した	B	・外部で研修を受けたことを自分のものだけではなく、職員と共有するために報告をすることで再度自分の学びを再確認できるよい機会をつくっている。 ・職員が学びの場に参加できるように、園内の体勢を整えることも大変なことなので、園全体で学ぼうとしている。	B	研修で学んだ知識や技能を保育実践に生かし、専門性の向上をめざし全職員が主体的に学び合う環境を整備していく。 学びを保育に生かしていくために、できることから取り入れて保育を充実させる。
保育・教育活動の充実	保育指針に沿って、乳幼児の発達に即した保育活動を展開し、感性が育つための環境構成を探索する。	子どもの発達過程について学びを深め、触ってみたい、遊んでみたいと思えるような保育環境を整える。	・子どもの興味関心に応じた環境を整えていくために一人一人の発達や育ちを捉え、保育者の願いをもって環境を整えてきたが、発達過程での動きを十分に経験できているとは考えにくいと思った。	B	・子どもは、大人から優しさや言葉を与えられることで感受性も豊かになり、心持も柔らかく自分の思ったことを言葉で表現するようになっていくと思う。日々の保育士の言葉がけ、また子どもにとって歌は、言葉として入ってきやすいものだろう。そのような言葉という宝があるということは大切なことである。	B	今後とも子どもの発達に応じて興味関心を捉え、遊びや環境の準備をしていけるように、研修等も取り入れながら取り組んでいく。 計画的に教材研究を行い、園全体で共有していく。
		絵本の活動や直接的な豊かな体験を通して言葉を育む。	・絵本を通して、子どもが園生活の中で様々な人、物、自然と出会い、心揺さぶる感情体験ができるように保育を考えてきた。育ちに合った声かけを行い、子どもが伝えようとする時を逃さず、目線や表情、しぐさなどを受け止め、日々丁寧な援助を積み重ねたことで、子ども自ら話したい姿が見られている。 また、わらべ歌や童謡を歌い言葉や音を耳から伝えることを意識したり、保育者意識して豊かな言葉を使ったり、子どもの気持ちを汲み取り、言葉に変えて代弁してきた。 ・職員による自己評価では、【70%以上の子どもは、遊びや生活を通して意思表示をし、伝わる喜びや嬉しい気持ちを感じている】と評価した。	B	・絵本からの動きかけは、すぐに結果ができるということではないが、続けている取組みが大切である。言葉は生きる土台になっていくと思うので、異動がある職員体制の中、職員の感情で行うのではなく、園の指針として表記し位置付けていくことが必要だと思う。	A	各保育室の絵本コーナーは、年齢に応じて子どもが自分で手に取れる場所に表紙が見えるように置くなど環境整備に努める。 絵本に興味をもち、主体的に絵本と関わる子ども達の姿を保護者に発信し共有、啓発していく。 言葉の習得が大きく進む時期なので、応答的な言葉のやり取りや話しかけを大事に遊びや関わりを工夫していく。
		豊かな感性を育むための食育活動を充実させる。	・年齢に合わせて身近な場所で計画的に栽培することで食への関心につながったと思える。野菜の栽培をすることで、野菜の特徴（トゲ、におい、根の様子など）じっくり見る子どもの姿が見られ興味や関心が見られた。乳児も収穫した野菜を見る、触れる、嗅ぐ等の体験を行い、重さを感じたり、匂いを体感してきた。 ・大学芋づくりや七草がゆの日には、実際に野菜を見て触れ、においを嗅ぎ食育活動につながった。3歳児は、おやつクッキングを年間3回実施し作って食べる楽しさを感じることができた。 ・保護者への食育活動への発信はドキュメンテーションや参観日に行った。保護者アンケート【保育所は食育を大切にし、菜園活動、収穫、味わう、おやつ作り、食育だより等で食育の工夫がされ、子どもたちは実践を通して食べる楽しさを感じていると思いますか】の問いに81.8%がそう思うの評価だった。	B	・食育だより発信の取組みがとてもよい。現代の世の中では、買うことで色々な食べ物がすぐに手に入る時代ではあるため、保護者にも食事に対して考えたり見直したりしてもらえる、きっかけづくりになっているのではないかと。このような取組みは、評議員としても嬉しい取組みである。 ・取組みが、成果として子どもに表われ、感受性にもつながっている。	B	継続して栽培に関われるように年間計画を立て、引き続き、収穫のめやすなど栽培に関する知識や技術の習得に努める。 探索が大好きな子ども達が、五感（見る・かぐ・触る・聞く・味わう）を刺激する食に関する関わりを大切に実践を進める。
地域に開かれた園づくり	保護者や地域に開かれた保育所づくりに努め、信頼される保育所を確立する。	遊びのなかの学びが伝わる発信を行う。	・長時間の保育の中で保護者と直接会う日がない時もあるが、参観日の動画や連絡帳（写真入り）、おたより、ドキュメンテーションで遊びの様子を伝えるだけでなく子どもの姿から思いや保育者が大事にしていることを意識して伝えていくようにし、保護者への伝え方や発信方法を意識し工夫して行うことができた。しかし、子どもの姿から学びをドキュメンテーションの作成について話し合ってきたが、そこまで至ってないクラスもあった。 ・保護者の参観日や行事のアンケートでは、【先生はお子さんの保育所での様子や成長の姿、保育で大事にしていることなどを分かりやすく伝えますか】90.9%がそう思う。ややそう思う9.1%だった。	B	同じテンプレートではなく、連絡帳に毎日違う様子を記入したり、写真を貼って伝える工夫をしている。クラスだよりも写真があり、伝わりやすい。 保護者からすると、そのときどきの子どもの様子を知れること、またドキュメンテーションをきっかけに子どもとの会話もうまれるという視点からはよい取組みだと思う。忙しいからと、できない課題だけがが増えていくことがないように、何故できなかったのか自分の中の解決課題を見つけておくことが大事である。十分保護者に伝わっているパーセンテージではあるが、保護者は楽しみだと思うので、もう一息頑張してほしい。	A	子どもの日々の様子を伝えたり、保育で大切にしていることや学びを一人一人が意識し、保育の様々な機会を活用したり、発信の方法を考えたりしながら、工夫を継続して行っていく。 生活や遊びの中の学びを伝えていく保育ドキュメンテーション分かりやすい掲示の仕方や工夫を行う。
		地域の自然・人・場所・行事などを活用して地域に親しみ、地域とつながれる保育を行う。	・積極的に園外に出かけて地域の自然に触れ自然物を使って遊んだり、季節を感じたりして保育に取り入れ、地域の人や物との出会いの場を大切に考えて子どもたちへの言葉がけを行った。地域の方の協力により様々な体験ができた。 ・保護者アンケート【保育所は、地域の自然や伝承文化に触れたり、地域の方との交流を行ったりするなど保育活動に取り組んでいるとおもいますか】そう思う95.5%ややそう思う4.5% ・職員による自己評価は、地域の活動に参加できず、十分に地域の事を知ることができなかった。	B	・コロナ後は、以前のことを基準に考えると、そもそもそのような機会が減ってきているように思う。機会が減っていることにより、職員の評価もそう感じたうえでのことではないかと。	A	職員間で情報を伝え合い、話し合いながら、地域の人や伝承文化との出会いを大切に年間計画を立て、継続して取り組んでいく。また、保護者にも参観日や便りなどで地域のことを知ってもらい、親しみにつなげていけるよう努める。